

令和7年度第1回陸前高田市子ども・子育て会議 議事録

- 1 日時 令和7年7月29日（火）午後3時00分～午後4時15分
- 2 場所 陸前高田市コミュニティホール 2階大会議室
- 3 出席者
出席委員（11人）
石田 裕夏 委員、 加藤千代治 委員、 菅野 千代 委員、 菅野 裕樹 委員、
熊谷 美里 委員、 嶋村 真弓 委員、 戸羽 進 委員、 戸羽 良一 委員、
中村 賢司 委員、 松田 秀樹 委員、 村上 千佳 委員

欠席委員（ 人）
及川 恭平 委員、 大木 智春 委員、 佐々木寿子 委員、 出羽 早苗 委員、
本多 文武 委員、 脇坂 健吾 委員
- 4 傍聴者 なし
- 5 事務局 福祉部長兼子ども未来課長 菅野 泰浩
福祉部子ども未来課主幹兼こども家庭センター長 阿部 景子
福祉部子ども未来課長補佐兼子育て支援係長 吉田 保永
福祉部子ども未来課子ども家庭係長 蒲生 恵美
福祉部保健課母子保健係長 蒲生 紋子
教育委員会事務局学校教育課主任指導主事 芳門 淳一
- 6 配付資料
 - ・ 陸前高田市子ども・子育て会議委員名簿
 - ・ 配席図
 - ・ 次第
 - ・ 資料1 陸前高田市子ども・子育て会議について
 - ・ 資料2 陸前高田市における子ども・子育て支援事業の状況について
 - ・ 資料3 陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第2期）掲載事業の取組実績
 - ・ 資料4 第2期計画 教育・保育利用の量の見込みと実績
 - ・ 資料5 第2期計画 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと実績
 - ・ 資料6 市内保育施設の認可定員の変更について
 - ・ 陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第3期）
- 7 議事録
 - 1 開会
 - 2 委嘱状交付

3 挨拶

(福祉部長)

皆様お疲れさまでございます。本年4月から福祉部長を拝命しております菅野と申します。本日は暑い中、また、お忙しいところご出席いただきまして、大変ありがとうございます。先ほど17名の皆様に陸前高田市子ども・子育て会議委員の委嘱状を机上にて交付させていただきました。皆様には委員への就任にご快諾をいただき、感謝申し上げます。委員の皆様は、保護者の方や子育て支援に携わっていらっしゃる方々、学校や保育所の先生方、民生委員・児童委員の方など、日頃から児童の健全育成にご尽力いただいている方々であり、非常に頼もしく思っております。2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年の全国の出生数が初めて70万人を下回ったという報道にもあるように、少子化や人口減少がますます加速しており、本市におきましても出生数の減少傾向が続いている状況にあります。子育てしやすい社会を作ることは全国的な課題ではありますが、地域のつながりの希薄化などにより、子どもや子育てをめぐる環境は依然として厳しい状況であると認識しているところでございます。

本市におきましては、子育て支援を重要な施策と考え、子育てしやすい環境の充実に向けて、学校給食費の無償化など様々な事業を行っているところであり、昨年度末には、計画期間とする第3期子ども・子育て支援事業計画を策定し、地域や関係団体の方々と連携しながら子育てに関する各種施策を進めていくことにしているところであります。また、子育て世代の方から要望の多い子どもの遊び場につきましては、今年度、広田地区への遊具設置や、総合交流センターへの室内遊具の設置を予定しており、遊び場の拡充に努めているところでございます。今後におきましても、本市の将来を担う子どもたちが健やかに育つことができるよう、地域全体で子育てしやすいまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

本日の会議においては、子ども・子育て支援事業計画の内容等を事務局から説明させていただきますが、委員の皆様方におかれましては、これまでの施策の実施状況を確認、評価していただくとともに、子育て支援の充実に向けた積極的なご意見を頂戴したいと思っております。本市のよりよい子育て環境を作っていくため、今後とも委員の皆様のご協力を賜りますようお願いし、挨拶とさせていただきます。

4 委員並びに職員紹介

5 議事

(1) 会議の運営について(会長、副会長の選出)

会長の選出について、事務局案との声が上がリ、事務局案として戸羽良一委員を提案し、承認された。

副会長の選出について、事務局案との声が上がリ、事務局案として松田秀樹委員を提案し、承認された。

(2) 陸前高田市子ども・子育て会議について

(事務局説明要旨)

- ・子ども・子育て会議の法的根拠、設置目的、今年度の会議予定について説明。

(質疑応答・意見)

- ・なし。

(3) 陸前高田市における子ども・子育て支援事業の状況について

(事務局説明要旨)

- ・教育・保育、地域型保育事業の実施状況の説明。
- ・地域子ども・子育て支援事業の概要及び昨年度実施状況の説明。
 - ・延長保育事業…保育短時間認定者への延長保育は市内全保育所・園で、保育標準時間認定者への延長保育は法人立4保育園で実施。昨年度の利用は全て短時間認定者で、延べ利用者数は150人。
 - ・一時預かり事業…市内全保育所・園で実施。昨年度は5施設で延べ120人が利用。
 - ・病児・病後児保育事業…気仙保育所で病後児保育を実施。昨年度は延べ35人が利用。
 - ・利用者支援事業…昨年度からこども家庭センター型で事業を実施し、延べ117人に対応。
 - ・放課後児童健全育成事業…矢作小学校区を除く7小学校区の9か所で実施。矢作小学校の利用希望者は長期休暇期間中に気仙小学校区の学童クラブを利用。
 - ・子育て短期支援事業…児童養護施設1か所と契約。昨年度の利用はなし。
 - ・乳児家庭全戸訪問事業…母子保健法と同様の事業を実施。昨年度は53件の訪問実施。
 - ・養育支援訪問事業…保健師がリスクを抱えている家庭、保護者に継続的な支援を随時実施。
 - ・地域子育て支援拠点事業…直営3か所、民間施設1か所で実施。子育て支援センターたかたは子どもの遊び場として土・日・祝日の月曜日も開所。
 - ・ファミリー・サポート・センター事業は未実施。類似事業として子育て応援ヘルパー派遣事業を実施し、昨年度は68時間分の利用があった。
 - ・妊婦健康診査…昨年度の利用実績は延べ725件。
 - ・産後ケア事業…デイサービス型とアウトリーチ型の事業を実施。昨年度、デイサービス型は延べ40人、アウトリーチ型は延べ5人が利用。

(質疑応答・意見)

- ・地域型保育事業の保育園ゆいま〜るが一時解散したような話を聞いたが、今は運営しているか。
<回答>
今年度は事業者側からの申し出で入所の申込みを止めていて入所者はいないが、来年度以降は保育所の入所申込みの時期に合わせ事業者に入所体制を確認する。

(4) 陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第2期）の取組実績について

(事務局説明要旨)

- ・陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第2期）の掲載事業の主な取組実績
 - ・幼児教育・保育の充実では、第2子以降の保育料無償化や、使用済おむつの持ち帰り廃止等による保護者の負担軽減を図った。
 - ・教育機会の確保として不登校児童等に対する適応支援事業、キャリア教育を継続して実施。
 - ・発達支援・療育支援体制として、関係機関との連携・情報共有に努め、児童発達支援事業や、保育施設での加配保育士、各学校での特別支援教育支援員の配置などによる支援を実施。
 - ・要保護児童対策として、要保護児童対策地域協議会を中心に虐待防止やケース対応を実施。
 - ・被災児童に対する支援として、スクールカウンセラーの配置による心のケア等に努めた。
 - ・安心して子どもを産み育てられる環境の整備では、妊産婦支援事業や乳幼児健診、5歳児相談等を実施。歯科保健事業は妊娠期から切れ目のない支援により、う歯有病者率が改善傾向。
 - ・相談支援体制として、子育てや家庭、就学等に関してそれぞれの相談員が対応。
 - ・経済的支援では、児童手当の支給対象拡大、子育て応援クーポン券の増額、制服リユース事業等による支援の充実を図ったほか、給付型奨学金を開始。

- ・ひとり親支援では、高等職業訓練促進給付金の対象資格を拡大した。また、資金貸付など各種制度を案内した。
- ・地域全体で子育て支援として、放課後児童クラブへのエアコン設置や子どもの居場所づくり活動を行う団体への補助制度を創設。子育て支援員研修は57人が修了。全小中学校に学校運営協議会を設置して地域ぐるみで特色ある学校づくりを推進した。
- ・子育てにやさしいまちの環境の整備では、子どもの遊び場の確保として高田松原運動公園への遊具設置、子育て支援センターの土日等開所や小友保育所の所庭開放を実施。
- ・仕事と子育ての両立を支援する就労環境の整備促進では各種制度を随時周知した。
- ・第2期計画 教育・保育利用の量の見込みと実績
 - ・6年度は横田町と気仙町で計画値を少し上回る実績となったが、全体では概ね計画値通り。期間中の各年度も全体では概ね計画通りの実績。
- ・第2期計画 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと実績
 - ・6年度は計画値を下回った事業が多いが、地域子育て支援拠点事業や一時預かり事業は5年度よりも利用が増加。
 - ・計画期間全体でも実績が計画値を下回った事業が多く、児童数が減少が要因の一つと考える。

(質疑応答・意見)

- ・なし。

(5) 陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第3期）について（資料5）

(事務局説明要旨)

- ・陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第3期）の趣旨、位置づけ、期間について説明。
- ・計画の基本理念、基本目標は第2期計画を引き継ぎ、12の基本方針を設定して総合的な施策の展開を図る。基本方針ごとに個別事業の概要と取組方針を説明。
- ・教育・保育、乳児等のための支援給付、地域子ども・子育て支援事業の各需給計画、母子保健事業の評価指標を説明。
- ・放課後児童対策の推進のための取組方針を説明。

(質疑応答・意見)

- ・保小スムーズコネクトプログラムがどういうものなのかを教えてください。

<回答>

現在、小学校に上がった時に小1プロブレムというものが全国的に課題になっていることから、年長の4月から小学校1年生が終わるところまでの2年間を全国的には架け橋期プログラムと位置付けている。その中で、年長児の10月以降から小学校に上がるまでに保育所・園での教育をスムーズに小学校につなぐようにということで、陸前高田市では平成28年度から保小の連携を行っているが、そこにスムーズコネクトという形のプログラムをあてて、保育所・園で保育を行っている。小学校1年生の4月から6月頃の部分は、小学校のスタートカリキュラムというものを策定し、保育所で学んできたことを活かしながら、小学校でいきなり学びを教えるということではなくて、保育の遊びの状況を踏まえた状態で小学校をスタートさせるというところを狙ったカリキュラムである。

- ・こども誰でも通園制度は3歳未満児を対象にとあるが、利用料は通常と同じように第2子、第3子は無料で、第1子は有料となるのか。

<回答>

こども誰でも通園制度に関しては1日ごとの利用料を市で定めることになるが、第2子以降を無償にするかどうかはまだ検討中である。

- ・子育て世帯訪問支援事業を令和8年度から始める際に訪問支援員を新たに雇用するのか。

<回答>

現在、シルバー人材センターで子育て応援ヘルパー派遣事業をしていただいているが、その支援員に新たな事業でも対応していただけないかということでシルバー人材センターと協議をしているところであり、実施する場合は委託という形になるかと考えている。

(6) 市内保育施設の認可定員の変更について（資料6）

（事務局説明要旨）

- ・令和7年4月からの認可定員を広田保育園は80人から70人に、竹駒保育園は30人から40人にそれぞれ変更する申請が認可権者である県に提出され、認められた。市内全体での定員数に変更はないため、保育需要に応えられると捉えている。

（質疑応答・意見）

- ・第3期計画だと変更前の定員になっていると思うが、計画は修正しないということか。

<回答>

現時点で修正はせず、計画の中間年に見直しを行うことにしているので、その時に定員についても変更をかける予定。

(7) その他

- ・子どもの遊び場について、野球場のところに大型遊具でバナナ滑り台が付いている遊具があるが、それが少し危険だということでロープが張ってある。子どもたちはロープが張ってあっても遊びたいので登ったりしている。今後もこのままロープの状態のままなのか、どのような対応を考えているのか聞きたい。

<回答>

その滑り台については、全国的に事故があったために使用を一時的に停止しているものだと認識している。今後どうするかについては担当課に確認しながら対処したい。

- ・不具合を改善するか、あるいは取り払って別なものにするか。いずれ、全国的な指針というものがあると思うので、ここだけ解除して、また同じような事故が起きても不安だと思うので、担当課に伝えるようよろしくお願ひしたい。

6 その他

なし。

7 閉会